



岡山市自立支援協議会

こども支援部会 令和6年度活動報告

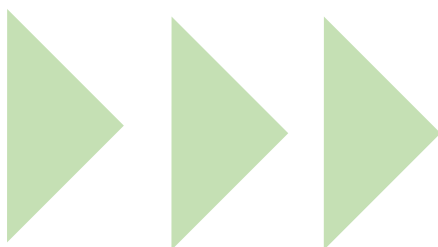
社会福祉法人旭川荘
わかくさ学園いちご
杉本明生

こども支援部会の目的

事業所間の連携
質の向上

地域課題の抽出
解決策を探る

情報発信



こどもが安心して楽し
く育つ地域にする。

こども支援部会 活動報告

(令和6年度)



●活動報告

★定例会は奇数月の第1水曜日10：00～12：00

灘崎文化センター 大ホール

岡山市でこどもに関わりのある、福祉サービス事業所職員、相談支援専門員等が集まり、こどもに関わる地域課題の抽出と解決にむけた話し合いを行う。

1. ホームページの活用（事業所紹介・空き情報）
2. こどもに関する研修会の開催
3. 福祉サービス事業所の支援方法や支援ツールの紹介
4. 事例検討や事業所内課題についてのグループワーク 等

日 時	内 容
5月15日(水) 10:00-12:00 ○地域別・障害種別別でGW	「相談支援専門員とつながろう」家庭、事業所、学校等の関連機関がつながり、ともに同じ方向へ進むうえで欠かせない存在である相談支援専門員の方。お互いに顔が見えて、必要なタイミングで相談しやすい関係になれるようつながる機会を作ります。
7月17日(水) 10:00-12:00 ○障害福祉課	「報酬改定や加算について」 報酬改定後、新しい枠組みのなかで生じる疑問、質問に答えます。 新加算の解釈やポイントについて詳しく解説していきます。 ＊ 障害福祉課から説明
9月18日(水) 10:00-12:00 ○杉安園長講義・GW	「5領域を全て含めた個別支援計画の立て方 -事例から学ぶ-」「健康・生活」「運動・感覚」「認知・行動」「言語・コミュニケーション」「人間関係・社会性」を含む総合的な支援内容を計画するうえで、どのような視点が必要なのでしょうか。年齢や特性等により捉え方は様々です。具体例を挙げながら、一緒に考えていきます。
11月20日(水) 10:00-12:00 ○2事例を選択しGW	「家庭を支援するとは」見守りの必要な家庭、要支援家庭・・・私たち事業所は、家庭に対してどこまでを支え、どの機関とつながる必要があるのでしょうか。様々な架空事例を通して、支援するうえでの工夫を共有したり、事業所が果たす役割について考えていきます。
1月15日(水) 10:00-12:00 ○ひかりんく・こども総合相談所・基幹相談・児童センター	「他機関との連携について」近年の動向から、効果的な支援をするうえで、事業所として市町村及び地域の関係機関との連携体制を確保していることが欠かせない状況となっています。 子どものサポート、要支援家庭、虐待ケース等、家庭の状況をふまえ他機関との連携の仕方について、事例を通して学びます。
2月19日(水) 10:00-12:00	「地域課題と次年度に向けての計画」 困っていること、解決に向けて取り組む課題を区別し、整理する方法について学びます。その後、こどもを取り巻く支援体制に係る地域課題を整理し、次年度に向けて協議します。

こども支援部会 活動報告

(令和6年度)



1. ホームページの活用（事業所紹介・空き情報）

こども支援部会参加事業所の空き情報をホームページにアップする。→Google Formを活用し、こども支援部会の参加を事前申込制にし、その際に空き情報を収集。→え〜んじゃねっとに2ヶ月に1度掲載した。

2. こどもに関する研修会の開催

コロナの関係でここ数年開催できていないので、ぜひと計画し開催していきたい。→1月に基幹相談支援センターやひかりんく、岡山市こども総合相談所の職員に登壇してもらい、事例を通じて各機関の役割理解を深めた。

3. 福祉サービス事業所の支援方法や支援ツールの紹介事業所の紹介や強みを会の中で発表する。

→毎回グループワークを通じ、事業所間での実践を通じて意見交換を行った。

4. 事例検討や事業所内課題についてのグループワーク等参加者が数人のグループになり、事例検討を行ったり、課題を出し合い、参加者の意見をもらう。解決できない場合は全体発表を行う。

→毎回事例検討を行った。年度末には地域課題の抽出と解決策について検討を行った。

① 事業所と地域との交流

・事業所でのイベント

・清掃ボランティア

・マルシェに出店、買い物に行く

・職場の見学会

保護者のニーズがわからない
事業所内だけでは厳しい？



☆ 大きな団体でイベントを企画
してもらう

地域ですべてできるところから

・アンケート調査

・ネットワーク 声をひろう

② 公・保・こども園や学校との連携

保育所等訪問支援 関係機関連携

・小学校への訪問難しく、電話連絡のみの場合もある。

・保護者の方の要望は多いが、周りの子どもの目もあるという
ことで断られる。

・小学校との関係性を作るため、見学だけでも
いいで行っている。

・相談支援員がついている方は、小学との連携も
持ちやすい。

・支援級・普通級によっても違う。

・時間帯の調整が難しい。夏休みを利用したり
する時もある。

・中学校・高校になると、もっと難しくなる。

・個人情報にも関わるので、あまり詳しく教えて
もらえない。

解決に向けて取り組む課題

・連絡をとり合い、見学をくり返し、事業所のことを知って
もらう。信頼してもらう。制度を知ってもらう。

・保護者や相談支援員さんから直接連絡してもらう。
相談を

・先生達全員に理解してもらう。→くり返し連絡

③ 相談支援事業所の少なさのため、福祉につながらない ケースがあること

- 問題
- ・ 情報を知る場が少ない
 - ・ 情報公開しているがまとまっていない
(えんじやネット、リタリコなど)
 - ・ ニーズに応じた情報を知りたい

- 課題
- ・ 相談支援事業所が増えると良いな
 - ・ 統一した情報サイトがあれば良いかな
(情報が詳細であればわかりやすい)
 - ・ 受給者証など申請に行政に行った時に
保護者への福祉サービスの案内をしていただけると
いい
 - ・ 放デイ、相談支援事業所との連携が増えると良いな
(情報交換、情報共有など)
- 空き状況や利用児童さんについてなど

本来あるべき状態

各事業所と相談支援事業所がスムーズな連携が
とれる地域一体で見守っていく。

④ 様々な特性の利用者を理解するための知識・療育技術の 向上 (自他共に)

「課題」 知識を得られる場所を明確化する。
チームアプローチをする。

	直近	中期	長期
マクロ (国・市)		連続講座が企画される。	
メゾ (家庭・学校・事業所)	困り事や疑問の 整理・分類をする	保育所等訪問や 情報共有	
ミクロ (事業所)	困り事や疑問の 整理・分類をする	他職種との視点や アプローチのしかたを 知る機会を設ける。 (内外部)	実践していく。

本来あるべき
状態

- ・ チームアプローチが
出来る。(実践)
- ・ 知識を得られる
場所が明確化
されている。

「現状」 専門的知識を知る機会が多い。知れても実践が難しい。

⑤ 利用者の希望するサービス（使えるサービス）が少ない

問題点

- ・医療ケア児（動ける見えない見えない児が断られる）
→ 対応できる施設が少ない
- ・障害が軽い児の受け入れ・情報が少ない
- ・社会資源の情報を知らない 詳しい内容が自己にまかされて
- ・親の希望とその児に必要な内容のギャップ

課題

・保幼小児園との使い方の難しさ、

- ・マンパワーを確保して支援が行き届くように、
- ・看護師の確保
- ・情報・社会資源が活用できるようなツール
- ・えんじやネットへの情報提供

	直近	中期 自立支援協議会等 ・えんじやネット内容充実 を促す、活用方法	長期（国県市） スタッフを確保 するための登録 賃金・報酬 等
マクロ			
メゾ			
ミクロ	えんじやネットへの 情報提供 子ども部会等情報共有の場への参加	スタッフを 人材育成 自己啓発	制度の理解 正しい運用

⑥ 子どもが地域で

育つために。

・子どもが無料であそべる場所が
少ない。

課題

情報共有できる場を設ける

公共の場は月より休みが多い、公園ばかりになる
コロナで縮小すると拡大できなくなった

・地域に連携できる事業所が少ない！

課題

情報共有できる場が欲しい！

横の連携がしたい。別の事業所につなげられない
情報が少ない。 → 急な受け入れ等あっても
むずかしい事がある場合